

富士紀行 (26) 「紅葉」と「黄葉」前線、南下中

富士山は恥ずかしがり屋である。朝、その全容を2時間ほど見せてくれるが、課業開始の頃には霧か雲の中に隠れてしまう。起き駆けに官舎3Fの台所から見る屹立した富士は一日の活力を与えてくれる。所要があつて未明に起きた場合など朝日に映える富士が見事である。

さて、そろそろ紅葉前線が南下しつつあるようだ。イロハカエデの紅葉前線は北から順次、日速（と言う言葉があるかどうかは不明だが・・・）30km弱で南下する。およそ50日で、日本列島を縦断するそうだ。

何故落葉植物はあるものは「紅葉」し、あるものは「黄葉」するのだろうか。「黄葉」化するのには、落葉前に葉緑体のクロロフィルが分解されて、葉の緑が消えるため、残された有色体中のカロチノイドと言う黄色い色素の色が現れて、黄色くなってくるのである。（例えば銀杏など）一方、紅葉化の場合には、葉柄基部に離層が出来、糖類が移動できなくなって葉に蓄積され、そうして貯まった糖やアミノ酸からアントシアンやフラボンなどの酸化物などが、液胞中に作られて紅色になる。（例えば、カエデ類など）この紅の色調は、糖類の量が多くて強い陽光に晒されると鮮やかとなる。

面白いことに、クロロフィルの分解で黄色が表面に出る現象と、アントシアン等の物質が作られて紅色になる現象が同じ葉で、同時に進行する紅葉もある。

富士山周辺の紅葉のスポットを幾つか紹介しよう。

- ① それぞれの富士山の登山道（スカイライン、スバルライン、アザミライン等）
カラマツ、ナナカマド、フジ桜等 紅葉の樹海のドライブは最高
- ② モミジトンネル（河口湖北岸の留守ヶ石 or 岩）
中央分離帯に植えられたモミジが恰もトンネルが如くに
地名の由来（お留守という絶世の娘が逢瀬を重ねた恋人が不慮の事故により死んだにも拘わらず、待ち続けた挙げ句に入水自殺をした。爾来、その地に夜な夜な恋人の名を呼びつつづける女が立っていたという。）
- ③ 紅葉台（足和田山）
モミジ、ナラ等の落葉樹、森林浴ならぬ紅葉浴を存分に楽しめる9Km、3時間のハイキングコースあり。五湖台からの眺めは絶景と、
- ④ 富士五湖や青木ヶ原樹海
カエデ、桜、ナナカマド、ブナ等
- ⑤ 三ツ峠
モミジ、ナラ、ウクハダカエデ、ブナ、トチノキ、コナラ、ハガノキ等

スポットによって差異はあるが、10月から11月（見頃の時期はそれぞれの観光協会等に確認の要あり）

紅葉狩りと松茸狩りを楽しむ人あり、富士山の松茸は香りが強く美味との評判有
（参考：百科事典、横河電機HP等）